

奥田助七郎のかつやく

名古屋港を大きな船が入れる港にするには、助七郎のどんなかつやくがあったのだろう。



奥田助七郎像

1

多くの人々の反対

税金を海にすてている
ようなものだ。港づくり
を中止すべきだ。



今からおよそ120年前、熱田の港は水深が浅く、大きな船が入ることができない不便な港でした。そこで、港をつくる工事が始まりました。しかし、当時は港づくりの大切さを知る人が少なく、多くの人々が反対をしました。

2

あきらめない助七郎

「ろせった丸」を
名古屋によびたい。
せきにんは、
わたしがもちます。

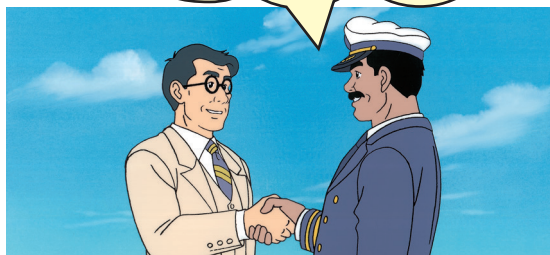


「ろせった丸」とは、全国の港を回る“動く博らん会場”とよばれた船です。助七郎はこの船を名古屋によんで大きな港をつくる大切さを分かってもらおうと考え、主さい者をお願いをしました。が、「小さな船さえ入ったことのない港に『ろせった丸』を入港させるなんてだめだ」と言われました。しかし、助七郎は決してあきらめませんでした。

3

うったえる助七郎

しょう来有望な港へ一番乗りをするのは名誉なこと。
あなたが船を案内してくれるなら、喜んで行きましょう。



助七郎は、「ろせった丸」の船長に直接うったえました。船長は、長年の夢であった助七郎の願いをこころよく聞き入れてくれたのでした。

4

「ろせった丸」入港



明治39年(1906年)9月29日、「ろせった丸」は、無事に港に入ることができました。十数万の人々は船で運ばれてきた世界の工業製品を見て、喜びの声をあげました。博らん会は大成功となり、これをきっかけに多くの人々が港づくりに賛成するようになりました。

奥田助七郎らの努力が実り、名古屋港は明治40年(1907年)に開港しました。今では、わが国を代表する貿易港として、地いきの産業やわたしたちのくらしをささえています。

名古屋港のあゆみ

100年前

1906年
(明治39年)

●「ろせった丸」が来る

1907年
(明治40年)

●名古屋港のはじまり

1936年
(昭和11年)

●中央ふ頭、東ふ頭ができる
(現在のガーデンふ頭)

70年前

1951年
(昭和26年)

●名古屋港管理組合がつくられる

1959年
(昭和34年)

●伊勢湾台風によって大きな被害を受ける

60年前

1961年
(昭和36年)

●せい鉄工場の進出をきっかけに産業施設
ができる

50年前

1964年
(昭和39年)

●高しお防波堤ができる

1972年
(昭和47年)

●本格的なコンテナふ頭ができる

40年前

1981年
(昭和56年)

●ガーデンふ頭ができる

1984年
(昭和59年)

●名古屋港ポートビル・名古屋海洋博物館が
できる

30年前

1992年
(平成4年)

●名古屋港水族館ができる

1995年
(平成7年)

●名古屋港シートレインランドができる

1998年
(平成10年)

●名港トリトン(名港三大橋)ができる

2001年
(平成13年)

●海棲ほにゅう類を飼育できる水そう
をもった名古屋港水族館北館が
できる

20年前

2002年
(平成14年)

●藤前干潟がラムサール条約に登録
される

2005年
(平成17年)

●飛島ふ頭南側に水深16mのコンテナ
ターミナルができる

10年前

2007年
(平成19年)

●開港100周年をむかえる

現在

2017年
(平成29年)

●レゴランド®・ジャパンができる



▲できたころの名古屋港(現在のガーデンふ頭)



▲伊勢湾台風で陸に乗り上げた船



▲名港トリトン



▲飛島ふ頭南側コンテナターミナル

名古屋港は開港後も
埋め立てをくり返して
大きくなっています。

